

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分  
 【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公開番号】特開2017-133260(P2017-133260A)  
 【公開日】平成29年8月3日(2017.8.3)  
 【年通号数】公開・登録公報2017-029  
 【出願番号】特願2016-14914(P2016-14914)  
 【国際特許分類】

**E 0 4 F 13/08 (2006.01)**

【F I】

E 0 4 F 13/08 N

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月22日(2017.9.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表面材と裏面材、及び前記表面材と前記裏面材で囲まれた空間に充填された芯材とから構成され、前記表面材の一側に該表面材を前記裏面材側に屈曲して連結凹部を形成すると共に、前記表面材の他側に該表面材を前記裏面材側に屈曲して連結凸部を形成した外装材であって、

前記連結凹部は、その断面形状において、前記表面材の平面部との間に間隔を空けて凹部内方に所定の距離延び、前記裏面材に向けて第 1 角度傾斜して第 1 距離延びた後に、前記平面部と平行に最奥端まで第 2 距離延びると共に、

前記連結凸部は、その断面形状において、前記表面材の平面部から前記裏面材に向けて第 2 角度傾斜して第 3 距離延びた後に、前記平面部と平行に最先端まで第 4 距離延びており、

前記連結凹部の前記第 2 距離は、前記連結凸部の前記第 4 距離より長い距離に設定されることを特徴とする外装材。

【請求項 2】

前記第 1 角度と前記第 2 角度は、異なる角度であることを特徴とする請求項 1 に記載の外装材。

【請求項 3】

前記連結凹部は、前記最奥端から凹部外方に延びる突出端部を有しており、該突出端部は、前記連結凹部の開口を狭めるように傾斜して形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の外装材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

前記目的を達成すべく、本発明に係る外装材は、表面材と裏面材、及び前記表面材と前記裏面材で囲まれた空間に充填された芯材とから構成され、前記表面材の一側に該表面材を前記裏面材側に屈曲して連結凹部を形成すると共に、前記表面材の他側に該表面材を

前記裏面材側に屈曲して連結凸部を形成し、前記連結凹部は、その断面形状において、前記表面材の平面部との間に間隔を空けて凹部内方に所定の距離延び、前記裏面材に向けて第 1 角度傾斜して第 1 距離延びた後に、前記平面部と平行に最奥端まで第 2 距離延びると共に、前記連結凸部は、その断面形状において、前記表面材の平面部から前記裏面材に向けて第 2 角度傾斜して第 3 距離延びた後に、前記平面部と平行に最先端まで第 4 距離延びており、前記連結凹部の前記第 2 距離は、前記連結凸部の前記第 4 距離より長い距離に設定されることを特徴としている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

表面材 2 の下部に形成された連結凹部 10 は、図 2 に示されるように、その断面形状において、表面材 2 の表面の平面部 2a との間隔を空けて、例えば平行に凹部内方に所定の距離 L1 延び、裏面材 3 に向けて第 1 角度  $\theta_1$  傾斜して所定の第 1 距離 L3 延びた後に、平面部 2a と平行に最奥端まで第 2 距離 L4 延びるものであり、具体的には、連結凹部 10 は、表面材 2 の下方で裏面材 3 に向けて（外装材 1 の肉厚方向）に屈曲された下奥行部 11 と、下奥行部 11 から凹部内方に延出し表面材 2 の平面部 2a と平行な下平行面 12 と、下平行面 12 から裏面材 3 に向けて第 1 角度  $\theta_1$  傾斜して第 1 距離 L3 延びる第 1 傾斜面 13 と、第 1 傾斜面 13 の上端から上方に延出し表面材の平面部 2a と平行な上平行面 14 と、上平行面 14 から下方に向けて湾曲して曲げられる第 1 方向変換部 15 と、第 1 方向変換部 15 から下方に表面材の平面部 2a 方向に傾斜して延出する中傾斜面 16 と、から形成されている。